

研修報告

平成31年2月18日

## 議会常任委員会合同視察研修

### 総務民生常任委員会

「福島原子力発電所廃炉資料館」及び「福島第2原子力発電所」を視察研修しました。

福島原子力発電所廃炉資料館は、福島原子力事故の事実と廃炉事業の現状等を確認できる場として、福島県双葉郡富岡町の旧エネルギー館に設置されたものです。

事故の時の構内や中央制御室の様子を再現した映像や、汚染水対策のプロジェクトシモンマッピング紹介、事故発生時の状況や原発事故の教訓、廃炉に向けた取組の現状等について映像や模型など用いた展示等を視察しました。

「事前の備えによって防ぐべき事故を防ぐことができなかつた」という事実に向き合った事故の反省がされていました。

次に、厳重な本人確認や厳しいチェックの後、福島第2原発内に案内されました。

東日本大震災の地震発生時、福島第2原子力発電所では1〜4号機は

運転中でありましたが、地震によりすべての原子炉が自動停止しました。地震による津波の被害を受け、原子炉の冷却機能を喪失しましたが、4つのうち1つの外部電源が生き残り、そこにケーブルを接続し、原子炉を冷やす事で、冷温停止ができた事などの説明を受けました。

職員の真摯な姿、現場の厳しい安全管理の状況、そして周辺の住宅の帰還できずに空き家になっている状況、日本、そして世界のエネルギー事情等、様々な事情を勘案しながら、参加議員それぞれに感じる

ところがあったと思います。



格納容器の真下の様子

### 教育産業常任委員会

「福島県Jビレッジ」を視察研修しました。

Jビレッジは、東京電力が地元貢献のために、ナショナルトレーニングセンターを建設し、福島県へ寄贈し、福島県は外郭団体である県電源地域振興財団へ移管したものです。

2011年3月11日の東日本大震災後は、除染場所や、復興の前線基地、作業員の宿泊所として使われてきましたが、2018年7月28日に本来のナショナルトレーニングセンターとして復活しました。

施設面積は、東京ドーム10個分の49ヘクタール、天然芝ピッチ8面、人工芝ピッチ2面、全天候型サッカー練習場、雨天練習場、ホテル（総客数200）、フィットネスクラブ、アリーナ、プール、約730台収容の駐車場を備えた一大トレーニングセンターとなっています。

全天候型サッカー練習場は、鉄骨2階、延べ床面積約1万平方メ

ートル、人工芝のグラウンドは天井までの高さが約22メートルあります。

屋根は汚れが落ちやすい加工を施し、自然換気方式で維持管理費を抑えたそうです。

建設費は、約22億円で、スポーツ振興くじ助成金15億円、残りは寄付金7億円で賄うとの事であり、これは城里町もぜひ真似をすべきものであると感じました。



Jビレッジ 全天候型練習場